

待望の田舎暮らし。

今が人生で一番良いとき

たつの市新宮町で山羊と鶏を飼い、畑に何も持ち込まない何も持ち出さない」ことをモットーに循環型農業で野菜作りをしている「みぎた農園」さんを訪問した。同農園を運営する右田智之(61)さん夫妻は7年前インターンで大阪からやってきた。

システム・エンジニアだった右田さんが「農業」を意識したのは20年ほど前。家庭菜園でつくった野菜がプロが作った野菜よりもより美味しかった」ことがきっかけだった。

53歳で会社を辞め誰も知った人のいない今の土地に来た。不動産屋の紹介で、「都会からも比較的近く、沢にはきれいな水も流れていて、里の一番奥なので他からの農薬がかかる心配もない」ので決めたという。

野菜は主に都会に宅配し、一泊夕・朝食つきでの田舎暮らし体験も提供している。田舎暮らし体験を始めたのは田舎暮らしをしたい人呼び寄せたり相談に乗ったりしたかったから。田舎には空き家はたくさんあるけど売り家は少ない。「我が家を訪ねてくる

田舎暮らし希望者に物件の情報だけでも提供できたら・・・」とJAや自治体などによる物件情報の提供を希望している。

右田さんは田舎暮らしをするに際し、やはり最大の難関は奥さんを説得すること。それで「先に辞めたほうが勝ち!」とばかり相談せずさつさと会社を辞めてしまった。そして、辞めた後「田舎に行く」と言ったのだという。「妻もそんなに田舎が嫌いではなかったので何とか付いてきてくれた」と笑うが、「やっぱりこのやり方はあまりお勧めできない」という。実は、奥さんは当時保育園で働いており、仕事を続けたかった。最初は、自分だけ平日は大阪、週末だけ新宮町に来るという二

重生活も考えた。だが、体が持たないと思い、一緒に行くことにしたという。

「近所との関係は、「無理は禁物。普通に挨拶して、当番や溝掃除など決められたことを普通にやっていたら十分」という。その集落の人と付き合い姿勢は自然体だ。そして、「田舎暮らし派の役目は田舎の人になりきることでなく、都会との繋がりをいつまでも保って、都会と田舎との架け橋になること」だという。

野菜は宅配が主で、都会の友人・知人やネットで知り合った人など、定期的に20人くらいの人に販売している。そして、「田舎暮らしは楽ではないけど、自給自足

的な暮らしではこれで十分」という。

右田さんは、今が人生で一番良いときだ」と感じている。「田舎で都会並みの暮らしをしようとする」と都会の人以上に働かないといけない。でも田舎で田舎並の暮らしをするのは楽だ。いそがしいけど、なにより気分的にはのんびりしている。それに今では都会のときよりずっと多くの人と付き合い合っているし来客も多い。」

奥さんは、「本当に星が綺麗だし、自然が豊か」だという。加えて、人との出会いも大きい。移住後、新宮や龍野に話せる友達ができた。「いろんな土地で良い人に出会う。人は財産」と思う。

今年から息子さんも一緒に農



新宮町にIターンした右田智之さん

業をやることになったので、畑も2倍に広げる。それで「これからは今までのような農業でなく攻めの農業もすることになるけど、農の楽しさだけは忘れないでいきたいと思う」と語る。